

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成19年9月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2271100791
法人名	有限会社 ライフケアセンター よつば
事業所名	グループホーム はづき
所在地 (電話番号)	沼津市東間門中溝616-1 (電話) 055-952-6667
評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年5月31日

## 【情報提供票より】(19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人	非常勤 2人 常勤換算 6.2人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	35,000~ 円	
敷金	有( 75,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松原医院・亀井歯科医院・杉山医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームを開設して4年を迎える。運営している法人は、県内で他にもホームを運営し、その機能や役割を十分に活かした取り組みを行っている。地域に根付いた、利用者に馴染まれる、本来の我が家と思われるような雰囲気を醸し出すことに配慮がされ、常に問題と課題意識をもって利用者本位の支援が行われている。「常に現役として人生を楽しんでいただける高齢者の生きがいを目指しています。」と理念を掲げ、利用者の充実した生活が継続して行われるように、管理者及び職員が一丸となって利用者へのサービス提供を行っている。今行っている事柄に常に問題と課題意識をもっては、今後の取り組みが更に向上されると思われ、今後の取り組みにも期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価結果を真摯に受け止め、改善が必要か否かを検討し、取り組んできている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎年同じ自己評価と外部評価のあり方に疑問を感じながらも、真摯に自己評価に取り組んでいる。振り返りと今後の取り組みに役立てようとして前向きに検討している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を十分に活用した取り組みとまではいかないが、ホームが中心となり認知症キャラバンメイト講習を行ったり、その後の講習会を開催したりとホーム機能を活かした取り組みを行うようにしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族とのコミュニケーションを大切に考え、何でも言える雰囲気づくりに努めている。これまでに苦情として申出はないが、意見や相談等には親身になって対応するようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域に根付いたホームづくりを念頭に、開設以降地域との交流、ふれあいを積極的に行ってきた。現在では、日常生活の中でも自然な交流が行われ、気軽に立ち寄れる関係が構築されている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく」を支えていくことを理念に掲げ、利用者一人ひとりその人らしく充実した生活が送れるような理念が確立している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が必ず確認する「申し送りノート」を活用し、情報の共有化に努めている。理念の実現に向けて常に課題意識を持って取り組むように努力している。	○	理念の実現に向けた問題意識を持ち、常に利用者の目線で物事を考えているので、今後もそれらの意識を持ちつつ取り組むことに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設以降地域に根付いたホームづくりを進めてきている。自治会行事への積極的な参加や関わりをもつように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を行うことへの意義と役割を十分に認識している。毎年度同じ項目での評価に疑問をもつ等、更なる取り組みへの思いを強く有している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活用した取り組みというまでには至っていないが、地域民生委員の協力を得て、ホームが中心となり認知症キャラバンメイト講習を行ったり、その後の話し合いの場を提供したりとホームの役割が位置付けられている。	○	運営推進会議を活用し、活かした取り組みにも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的な市職員との関わりは持っているが、連携を図りサービス向上に向けた取組みにまでは至っていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度は、手書きの便りを送付して近況を家族に伝えるようにしている。また、写真を使用したホーム便りを発行している。家族の訪問時には、日常の近況報告を行う等し、家族との関わりも大切に考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族のコミュニケーションを大切に考え、何でも話せる関係づくりと雰囲気づくりに取り組んでいる。	○	外部申出先に沼津市民相談センターが重要事項に記されているが、市介護保険担当課や国保連の記載も欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員の離職等による弊害を十分に理解し、職員の勤務形態を工夫したりして利用者に影響が出ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上を図るために、研修の必要性を十分に理解し、積極的に受講するようにホームとして取り組んでいる。カンファレンス時には、受講職員による報告も行われている。	○	職員の質の向上を図るために今後も計画的に研修実施(受講)を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流によるネットワークづくりや連携の必要性を理解し、今後は取り組んでいくようにしている。現在も系列内事業所とは連絡、情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時には利用者の状況を適切に踏まえて、少しずつ無理にならないようなサービス提供に心掛けている。また、その都度、利用者の様子を確認している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりの意向に沿った寄り添うような支援を行うように心掛けている。利用者からも学ぶような関わりをもって接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりや会話の中で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、家族からも情報を得るために取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が充実した生活が継続できるように、利用者及び家族からの意向や希望を踏まえて介護計画を策定している。また、職員間で計画内容の共有にも努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的に行い、利用者及び家族にもその内容を確認している。また、状況の変化には臨機応変に対応するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム機能を十分活かして、柔軟な対応を行っている。利用者の時々々の状況に応じた対応を図るようにも配慮するとともに、一人ひとりに合わせた柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。受診経過の把握にも努め、状況の把握にも努めている。一人ひとりの受診ノートを作成し、活用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたあり方には関心を持って検討している。利用者や家族と話し合いを行っているが、明確な方針策定にまで至っていない。家族との延命措置に対する同意書は作成している。	○	今後も利用者及び家族、かかりつけ医等との話し合いを行い、ホームとしてどのように取り組んでいくのか検討していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーの尊重には最大限の配慮している。人格や尊厳を損ねることが内容に職員間で話し合いを行い、確認し合いながら支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの意向やペースを尊重した支援に努めている。職員の勤務状況によりそれが行えない場合もあるとの課題意識をもって、いかにその人らしい生活を送れるかを考えながら支援している。	○	いかにその人らしい生活を送れるかを考えている。出来ること出来ないことがあるが、常にそれを思っていることを継続して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、職員と一緒に主体的に関わっている。男性も女性の利用者もともに楽しく調理、準備等が行われている。味付け等も利用者が確認したりと和やかな雰囲気です。職員の補完的な役割にならないようことの留意もされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向を踏まえて柔軟に入浴できるように準備している。午前中にも入浴できるなど、入浴が一つの楽しみとなるような位置付けや配慮が行われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	思い思いに散歩に出かけたり、畑仕事は自分の仕事として作物を作ったり、植物を植えたりと変化のある日々が送れるように留意している。また、自然な形で地域住民との関わりや交流も深まってきている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームに閉じこもることがないように、積極的に外出機会を設けたり、外出支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみであり、日中の施錠はない。居間や居室も窓を開けて開放的なホームとしている。施錠による弊害についても良く理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えた準備を備蓄も合わせて行っている。災害時には、近隣住民をも受け入れられるように備えている。定期的な防災訓練も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列の施設の献立を参考にし、その日の希望や買い物時での希望や担当者に任せて臨機応変に行われている。カロリー計算は特に行っていないが栄養バランスには気をつけている。水分摂取量の記録はしていないが職員は把握し、申し送りノートに記入している。	○	利用者中心で利用者の視点にたった献立としていることは今後にも期待したい。献立記録はもう少し丁寧の残して欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に家庭らしい居心地良い空間づくりに取り組んでいる。利用者の作製した作品を掲示したり、季節の植物をホーム内に飾ったりと利用者の目線にたってその空間づくりを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が思い思いに居心地良く過ごせるように個性ある物品類を持ち込んでいる。居室も広いので、個性ある空間となり、それを職員が支援している。	○	利用者の意向を踏まえた支援を行っている。職員もそのことを認識しており、今後も継続して取り組むことに期待したい。